
Legend ~ 少年竜騎士の運命 ~

ガネガネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Legend ～少年竜騎士の運命～

【Nコード】

N5494BA

【作者名】

ガネガネ

【あらすじ】

『バルハラ』。あらゆる種族や生物が生きるこの世界には『魔法』という力が存在する。

この世界の住民は『魔法』と共に生き、『魔法』と共に文化を築き上げてきた。

『聖クライアント魔法学院』。

『バルハラ』を造る10大国の1つ、『クライアント王国』にある
世界で指折りのエリート魔法学校である。

そこに1人の少年が入学する。

少年は魔法が強いわけでもなく、学校では『落ちこぼれ』の1人と
して見られていた。

しかし、少年には1つの特別な力と、1つの運命ちからを持っていた？

プロローグ

〜雪の中で〜

雪の降り積もる中に少年はいた。年は5、6歳くらいだろうか。鮮やかな銀髪にエメラルドグリーン
の瞳が特徴的だった。

その少年は少し異様であった。

異様というのはその格好である。

雪の中にいるには合わない寝着の姿だった。そして、異様なのはそれ
だけではない。少年の寝着のいたる所に血が付いていた。
血は少年の物ではない。

「嫌だよ……目を開けてよ……ねえ、父さん！」

泣きじゃくる少年の前には、一人の男が仰向けに横たわってた。

男は少年の父親である。

父親の体は氷の様になっていたが、それは雪だけのせいではない。
父親は銀の鎧を身に着けていた。鎧は辛うじて形を保っていたが、
いたる所に深いヒビがはいつていて、少しでも動かすと直ぐに壊れ
てしまいそうだった。元々目を瞑る程の光を放っていたが、今では
土と血がこびりついたせいでその輝きを既に失っていた。

「か、カイト……そんなに泣くな……。父さんまで、泣きたくなる
だろう？」

父親は今にも力を失いそうな腕を必死に動かし、息子の頭に手を置
く。そして優しく、ゆくゆくと頭を撫でる。

それすら父親には辛い筈なのに。

それを顔に見せる事なく、我が子を愛おしむ目で。

「いいか……カイト……。生き物はいつか、必ず……。死ぬ。父さんも
……、そうだ。父さんは、少し……。それが……。早いだだけだ」

「違うよ。父さんは死なないよ！父さんは、王様も認めた騎士なんだよ…？竜騎士なんだよ！父さんは強いんだ！…だから…、絶対に死なないんだ？」

乾ききつたガラガラの声で訴える。

父の強さを。

頭に浮かぶ、最悪の結末を否定するために。

最悪の結末が訪れないよう、心で必死に祈りながら。

しかし少年の願いも虚しく、雪の寒さと流れ続ける血のせいで父親の体力も徐々に失っていく。

父親はそんな状態でも空いているもう片方の手で、首にかけている

『ある物』を紐ごと千切った。

『ある物』は少年の両手に収まるぐらいの金属の笛だった。外見は至ってシンプルだが、その輝きはとてつもなく、神聖な物である事が分かる。

その笛は、彼らの一族に代々伝わる物。

一族の中でも、選ばれた1人の者しか使えない物。

父親はそれを震える手で、少年に差し出す。

「これは…、次の…、こう、後継、しゃに…お、お前を選らんだ。う、受け取れ…」

消えそうな声で話す父親の言葉に、少年はこれから起こる出来事がもう、直ぐそこまで来ている事に気付かされた。

いや。男の姿を見た時に分かっていた事を、否定し続けていた事を有無言わず肯定された。

即ち、父の死を。

「だめだよ…、父さん。そんなの嫌だよ！」

倒れそうな父親の笛を持つ手を、両手で握り締めながら、泣き叫び続ける少年に父親は、それでも優しく笑いかける。そして、「カイト……忘れる、な。私達は、つ……常に運命と……、共に、あ……ある、こと、を……」

バタ……

少年の頭を撫でていた手が、少年の顔をなぞって滑り落ちる。

少年が握っていた父親の手も、力が尽きていた。

それが、父親の最後の言葉だった。

「いやだ、嫌だよ……。目を開けてよ！ねえ、父さん？」

父親の体を必死に揺らしていると遠くから「バサ、バサ」と、何か羽ばたく音が耳に届いてきた。少年が音のする方を見ると、前方の空から何かがちやらに飛んできているのが見えた。

翼があるが鳥ではない。全長が5・6mの竜だった。

その竜は少年の周りに、強烈な風を起こしながら少年の前に舞い降りた。

少年は知っている。その竜が父の強さの1つであった事を。父の相棒だった事を。

そして、今からは少年の相棒になる事を。

少年の運命ちからになる事を。

ブログ

～雪の中で～（後書き）

週1のペースで更新します。ご指摘、アドバイス等がありましたら
お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5494ba/>

Legend ~ 少年竜騎士の運命 ~

2012年1月15日00時52分発行